

柏崎刈羽原発の再稼働の是非は県民投票で！

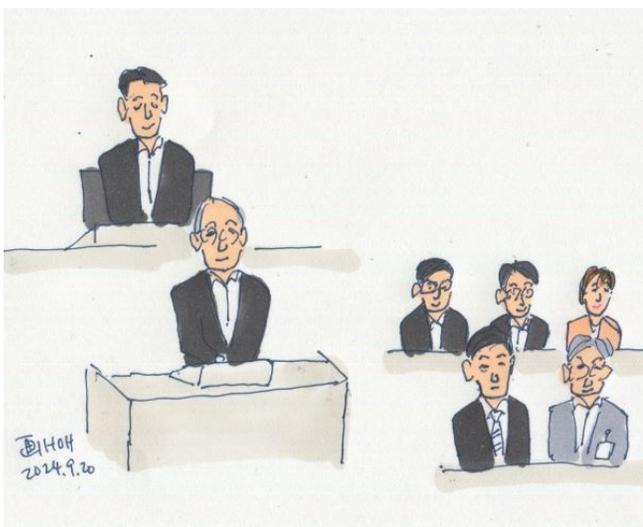
柏崎刈羽原発の再稼働の是非については県民投票で決めるべきだとして、市民団体が21日、市民プラザで県民投票条例の制定を求める集会を開きました。会場には50人ほどの人たちが集まり、氣勢を上げました。

主催者代表として大潟区の佐藤忠治さんが挨拶した後、「柏崎刈羽原発再稼働の是非を県民投票で決める会」事務局長の吉田裕史さんが条例制定直接制定運動の意義について語りました。吉田さんは元県立高校教員で、チェルノブイリ原発事故を契機に原発を強く意識するようになったとのこと。吉田さんは、知事が県民に信を問うと言っていること、2012年の直接請求運動での課題と教訓にも触れながら、署名を大きく集め県議会に働きかけ、条例が可決される運動にしていこうと呼びかけました。

集会の最後のパフォーマンスは今回も新婦人の皆さんが頑張ってくれました。手作りのポスターも良かったです。



市長の学歴差別発言は許されない。辞職すべきだ



私は9月議会の一般質問で中川市長の10回にも及び不適切発言を取り上げ、辞職を迫りました。以下はやりとりの一部ですが、答弁は論点ずらし、はぐらかしが目立ちました。

【私】今年6月の学歴差別ともいえる発言は、昨年7月の発言と無関係だとは思えない。学歴差別の意識、公立と私立の高校の差別的な意識があったのではないか。昨年7月には謝罪して反省して、二度と問題を起こさないという決意をしているのに、なぜ6月にああいう発言が出てくるのか。説明できるか。

【市長】私には学歴差別の考え方はないし、学歴によって評価されることはあってはけないと考えている。

【私】それだと答えになっていない。どうして差別的な発言を繰り返したのかの自己分析が必要なのではないか。その分析に立った答弁をすべきだ。

【市長】今回の私の発言が学歴差別発言と受けとめられたことについては猛省しなくてはいけない。

【私】そう言うのであれば、なぜ不適切発言が続いたのか、その要因を整理して、我々にも説明すべきではないか。私たち議員団では、①学歴で人を判断するゆがんだものの見方がある点、②相手方の人権や人間的な価値を認識できていない点、③思ったこと感じたことを深く考えずに言葉にしてしまう点、の3点で分析したが、あなたの分析とどう違うか。反論があるなら述べてほしい。

【市長】繰り返したが、学歴で判断せず多様な方々が様々な場面で活躍する姿が望ましいとっていて、その考え方は変わっていない。



【ヌルデ】ウルシ科の落葉小高木。漢字で「白膠木」と書きます。別名は「フシノキ」。ウルシ科ではありますが、ウルシほどのかぶれは聞きません。山林の土手などに生えています。花期は8月から9月。黄白色または白色の小さな花をたくさん咲かせます。花言葉は「知的な」「華やか」「壮麗」。12日、吉川区代石にて撮影しました。



青野池にいたコウノトリ。足環の色は黒でしたが、個体番号は読めませんでした。今春、吉川区で生まれた鳥かも知れません。撮影は23日。

はしづめ法一の活動レポート

No.2173 2024.9.29

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八二〇回 カボチャが七個

カボチャがたっただけでもこんなうれしいものなのか。大潟区の農村部に住む元気なお母さん、K子さんのエビスさんのようなニコニコ顔をみて、そう思いました。

猛暑がようやく一段落して、はっきりと涼しさを感じるようになった日の午後のことでした。K子さんの家に寄り添わせてもらったら、まず水ようかんを出してくださいました。ちょうど小腹が空いた時間帯でしたので、遠慮なくいただくわ。

この水ようかんを食べ始めたところでK子さんは、「何という名前のカボチャか分からないけど美味しいんですよ」と言っていて今度はカボチャを出してくださいました。小皿に出されたカボチャは三、四切れ。皮は緑色で、中は黄色でした。小さなフォークで削るようになり取り、口に運び入れると言われた通りでした。ほどよい甘さで、とても美味しいものだったのです。

「どんなカボチャなんだろう。まだ残っていますか」とK子さんに訊いたら、「ありますよ」と言ってお台所から持ってきてくださいました。そのカボチャは、私も吉川区内で見たことがあるものでした。表面は緑色で浅いミゾも、白い斑点もある。形はラグビーボールそっくりで、けっこう重みのあるカボチャに見えました。

それからです。K子さんがカボチャのドレッシングを語ってくださったのは……。

カボチャの苗は隣の家のM子さんからもらったそうです。M子さんは、その昔、「ミスブルボン」と呼ばれた器量よしの人でした。「着るもの着ていいから昔の姿に一度会いたいもんですね」と言うのと、「また、そんなこと言っていて……。いまだって素敵ですよ」とK子さんは笑いました。

カボチャは、今年初めてかと思いきや昨年植えたとのことでした。しかし、昨年是一个もならなかったのです。今年もなかなかならず、駄目かと思っであきらめかけ

ていたところ、大きな実が一個なり、それから次々と実をつけ、何と合計で七個もなったのでした。いうまでもなく、K子さんの喜びは格別でした。まさにラッキーセブンです。

カボチャがなった話をK子さんが日頃お世話になっている養法寺の坊守さんにしたところ、坊守さんは今年、坊ちゃんカボチャを四十数個もならせたとのこと。一輪車のぼてに入れないほどとれたと言われたそうです。その秘訣を聞いたところ、苗を植えてそのままにしないで、親ツルが六〇センチくらいになったら一回切る。そこから脇に芽が出て伸びて、さらに一際伸びたら再び切る。そうすると、ツルがあちこちに伸び、花を咲かせ、実をならせるのだとか。カボチャは植えれば手をかけなくても必ず実がなる、極めて簡単な農作物だと思っていたのですが、やはり摘心（てきしん）など育てる技術が必要なんですね。

カボチャを食べながらのおしゃべりは三十分くらい続きました。コウノトリの話から数十年前のK子さんのお連れ合いの初恋の人の話までして、何度笑ったかわかりません。楽しいおしゃべりとなりました。

K子さん宅から家に戻る前、現在のカボチャの様子を見せていただきました。どうしても見ておきたかったです。

家のすぐ北側にビニールのかかっているパイプハウスがあり、その奥にカボチャのツルが見えました。K子さんが、「ほら、あそこに。ここにも」そう言って指さすところに小さな「ラグビーボール」が三個ほど横たわっていました。いずれの実も底には白い台が置いてありました。

説明を聴いている途中、ハウスの入り口付近に人の姿を確認しました。家の中におられると思っただけでK子さんのお連れ合いです。その、やさしく見守る姿を見て、「ああ、素敵な夫婦だなあ」と思いました。

「水檜の会展」、身近な作品いくつも



原発県民投票キックオフ集会に参加する前、市民プラザ1階で開催中の「第41回水彩連盟新潟支部水檜の会展」を観てきました。

私は入場者第1号。13人の作家さんの作品はいずれも素敵なもので

したが、その中で小池喜信さんの「大出口の棚田」は日頃見慣れた風景なので強く親しみを感じました。金井九一さんの「兵どもが夢の跡」は立体感があり、思わずそばまで行って、デコボコがあるかないか確かめました。光徳寺作品展でおなじみの吉崎正敏さんの作品のなかにあった「とんぼ飛ぶ」は遊び心があって面白かったです。「こんな描き方もあるのか」と思ったのは風間史織さんの「白花」の素敵でした。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月18日(水)	9月25日(水)
上越消防署	0.053	0.050
上越南消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.057	0.043
頸北消防署	0.047	0.047
頸南消防署	0.067	0.063
東頸消防署	0.043	0.047
名立分遣所	0.057	0.060
高士分遣所	0.053	0.043

久しぶりにミニ同級会

東京から旧源中学校時代の同級生が墓参りに来たこともあり、近くに住む同級生8人が集まり、柿崎区内でミニ同級会をやりしました。

ミニ同級会では、今春、コウノトリのヒナが誕生したことや市長の不適切発言で市政がゆれていることなどが話題になりました。年齢が後期高齢者にかかってきたので、最大の関心はやはり、健康でした。



春よ来い

第八二〇回 カボチャが七個

カボチャがたっただけでもこんななうれしいものなのか。大潟区の農村部に住む元気なお母さん、K子さんのエビスさんのようなニコニコ顔をみて、そう思いました。

猛暑がようやく一段落して、はっきりと涼しさを感じるようになった日の午後のことでした。K子さんの家に寄り添わせてもらったら、まず水ようかんを出してくださいました。ちょうど小腹が空いた時間帯でしたので、遠慮なくいただくわ。

この水ようかんを食べ始めたところでK子さんは、「何という名前のカボチャか分からないけど美味しいんですよ」と言っていて今度はカボチャを出してくださいました。小皿に出されたカボチャは三、四切れ。皮は緑色で、中は黄色でした。小さなフォークで削るようになり取り、口に運び入れると言われた通りでした。ほどよい甘さで、とても美味しいものだったのです。

「どんなカボチャなんだろう。まだ残っていますか」とK子さんに訊いたら、「ありますよ」と言ってお台所から持ってきてくださいました。そのカボチャは、私も吉川区内で見ることがあるものでした。表面は緑色で浅いミゾも、白い斑点もある。形はラグビーボールそっくりで、けっこう重みのあるカボチャに見えました。

それからです。K子さんがカボチャのドレッシングを話してくれたのは……。

カボチャの苗は隣の家のM子さんからもらったそうです。M子さんは、その昔、「ミスブルボン」と呼ばれた器量よしの人でした。「着るもの着ていいから昔の姿に一度会いたいもんですね」と言うと、「また、そんなこと言っ……。いまだって素敵ですよ」とK子さんは笑いました。

カボチャは、今年初めてかと思いきや昨年植えたとのことでした。しかし、昨年一個もならなかったのです。今年もなかなかならず、駄目かと思っであきらめかけ

ていたところ、大きな実が一個なり、それから次々と実をつけ、何と合計で七個もなったのでした。いうまでもなく、K子さんの喜びは格別でした。まさにラッキーセブンです。

カボチャがなった話をK子さんが日頃お世話になっている養法寺の坊守さんにしたところ、坊守さんは今年、坊ちゃんカボチャを四十数個もならせたとのこと。一輪車のぼてに入れきれないほどとれたと言われたそうです。その秘訣を訊いたところ、苗を植えてそのままにしないで、親ツルが六〇センチくらいになったら一回切る。そこから脇に芽が出て伸びて、さらに一筋伸びたら再び切る。そうすると、ツルがあちこちに伸び、花を咲かせ、実をならせるのだとか。カボチャは植えれば手をかけなくても必ず実がなる、極めて簡単な農作物だと思っていたのですが、やはり摘心（てきしん）など育てる技術が必要なんですね。

カボチャを食べながらのおしゃべりは三十分くらい続きました。コウノトリの話から数十年前のK子さんのお連れ合いの初恋の人の話までして、何度笑ったかわかりません。楽しいおしゃべりとなりました。

K子さん宅から家に戻る前、現在のカボチャの様子を見せていただきました。どうしても見ておきたかったのです。

家のすぐ北側にビニールのかかっているパイプハウスがあり、その奥にカボチャのツルが見えました。K子さんが、「ほら、あそこに。ここにも」そう言って指さすところに小さな「ラグビーボール」が三個ほど横たわっていました。いずれの実も底には白い台が置いてありました。

説明を聴いている途中、ハウスの入り口付近に人の姿を確認しました。家の中におられると思ったK子さんのお連れ合いです。その、やさしく見守る姿を見て、「ああ、素敵な夫婦だなあ」と思いました。

「水檜の会展」、身近な作品いくつも



原発県民投票キックオフ集会に参加する前、市民プラザ1階で開催中の「第41回水彩連盟新潟支部水檜の会展」を観てきました。

私は入場者第1号。13人の作家さんの作品はいずれも素敵なもので

したが、その中で小池喜信さんの「大出口の棚田」は日頃見慣れた風景なので強く親しみを感じました。金井九一さんの「兵どもが夢の跡」は立体感があり、思わずそばまで行って、デコボコがあるかないか確かめました。光徳寺作品展でおなじみの吉崎正敏さんの作品のなかにあった「とんぼ飛ぶ」は遊び心があって面白かったです。「こんな描き方もあるのか」と思ったのは風間史織さんの「白花」の素敵でした。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月18日(水)	9月25日(水)
上越消防署	0.053	0.050
上越南消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.057	0.043
頸北消防署	0.047	0.047
頸南消防署	0.067	0.063
東頸消防署	0.043	0.047
名立分遣所	0.057	0.060
高士分遣所	0.053	0.043

ほくほく線沿いの絶景も紹介

先日の「きらっと新潟」でも鉄道写真家・中井精也の「絶景てつたび」で市内を走るほくほく線が取り上げられました。

中井さんの下りた駅はくびき駅、大池いこいの森駅、虫川大杉駅でした。いずれも絶景を紹介していましたね。右のイラストはくびき駅近くから見た夕日です。

